DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

Rotary

神奈川東ロータリークラブ
KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2016-2017年度 第21週報 No. 1957 2016年（平成28年）12月２日 第1957回 例会記録 12月９日発行

本日〈12月９日〉のプログラム

◆斉　唱　「我等の生業」
◆献　立　小エビとベーコンのマカロニグラタン
◆卓　話　「川柳の楽しみ方、作り方」
全日本川柳協会　常任理事　てじま晩秋　様
（紹介者　石川　正三　会員）

《本日のＢＧＭ》
アルバム「クロードチアリ　愛のギター 20 曲」

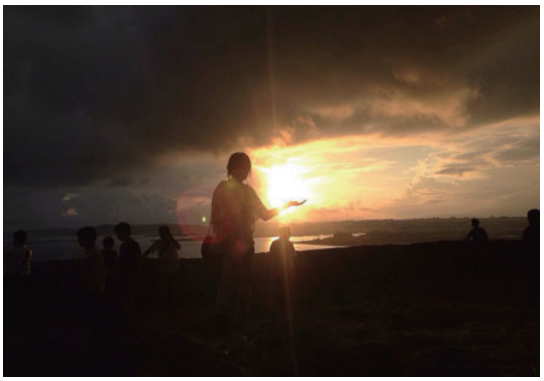

PHOTO　加野亮一　会員

司　会　白鳥　厚夫　副幹事

点　鐘　植田　清司　会長

斉　唱　「君が代」「奉仕の理想」
ソングリーダー　澁谷　高弘　会員

四つのテスト　岡部雄一郎　職業奉仕委員
（第1例会のみ）

年次総会

クラブ細則第１条及び第５条の規定に基づき、年次総会が開催され、次年度理事・役員が出席会員全員の賛同により、承認された。

理事・役員

会長	矢野　修二
直前会長	植田　清司
会長エレクト	天野　公史
副会長	田中龍太郎
副会長	河野　明光
幹事	白鳥　厚夫
会計	白井　康夫

理　事

職業奉仕委員長	赤堀　和人
社会奉仕委員長	友添　辰哉
青少年奉仕委員長	横溝　亘
国際奉仕委員長	加野　亮一
戦略計画委員長	渡邉　淳

2016-2017年度 ＲＩ会長 ジョン F. ジャーム

人類に
奉仕する
ロータリー

第2590地区　ガバナー　高良　明

会長	植田清司	会計	白井康夫
会長エレクト	矢野修二	副会計	河野明光
副会長	西山潔	ＳＡＡ	田中龍太郎
副会長	伊東英紀	副ＳＡＡ	茂木知子
幹事	小山市康	副ＳＡＡ	吉田隆男
副幹事	白鳥厚夫	クラブ会報	加野亮一

例会日　毎週金曜日　0：30 ～ 1：30 PM（第５金曜日 6：00 PM）
例会場　ホテルキャメロットジャパン
ＵＲＬ　http://www.kanagawahigashi.com/
E-mail　kerc@beach.ocn.ne.jp
事務局　ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004　横浜市西区北幸 1-11-3
TEL：045-314-3900　FAX：045-314-3555
創立記念日　昭和 51 年５月 29 日

ゲスト紹介

山田　園生　様（ゲストスピーカー）
ガンスフ　ゲレル　様（米山奨学生）

特別行事

◆米山奨学金贈呈　　米山奨学生　ガンスフ　ゲレル　様

みなさん、こんにちは。ゲレルです。学生生活は後少しで、毎日修士論文等でとても忙しい日々を送っています。無事であれば３ヶ月後に卒業します。今後ともよろしくお願い致します。

誕生日祝

矢野　修二　会員（12月３日）
加藤　仁昭　会員（12月５日）

幹事報告

小山　市康　幹事

・次週例会終了後に12月度定例理事会を開催致します。
・ロータリー財団100周年記念事業“ロータリーみなとみらいチャリティーマラソン”の参加申込書を回覧致します。参加を希望される方は名前と出場種目の明記をお願い致します。また、企業からの協賛品のご協力もよろしくお願い致します。
・ＲＬＩパートⅢの案内を今週も回覧しておりますので、参加を希望される方は事務局まで申し出ください。
・次週例会は公開卓話となります。点鐘は通常通り12時30分ですが、昼食は12時より順に取って頂くことになります。ご了承のほど宜しくお願い致します。

委員会報告

雑誌委員会　副委員長　河野　明光

「ロータリーの友」12月号「ようこそRotary」のコラムで、「あなたはロータリアンとして若すぎる？」の記事が目に留まったので紹介したい。

入会前にロータリークラブと聞いてどの様な印象をお持ちであっただろうか・・・。「年配の方々の集まり」と思っていた方も少なくないようだ。事実、日本のロータリークラブは海外のクラブと比べて平均年齢が高く、60歳を過ぎてから入会される方も多いそうだ。ロータリーは多様性を大切にしており、人種、国、職業、性別はもちろん、年齢の多様性も大事とされている。「あなたがロータリアンでなければ100歳の友人ができることは無いかもしれない。異なる年齢の人たちと親しく付き合えること、それがロータリーの良さであり魅力である」と記事は結んでいる。

この記事、一度目を通されては如何だろうか。

・・・雑誌委員会より連絡事項・・・

2013年の規定審議会で決定され、2014年から「ロータリーの友」の電子版が発行されました。「ロータリーの友」のホームページは、下記ＵＲＬになりますので、御参照下さい。

URL　http://rotary-no-tomo.jp/

ログインの際に必要な「ＩＤ」と「パスワード」は、規定により文書化出来ませんので、例会にてご報告済みの単語をお使い下さい。

「ロータリーの友」の電子版は、パソコン、タブレット、スマートフォンで閲覧可能です。

出席報告

但野真実子　出席委員長

会員総数	50名		(30＋20)名
出席会員数	42名		(26＋16)名
出席率	91.30%		
ゲスト	2名	ビジター	0名
前回補正後	88.64%	前々回補正後	85.71%

スマイルボックス

田中龍太郎　ＳＡＡ

加藤仁昭君　①B-SKY 副委員長　山田様、ようこそ。本日の卓話、よろしくお願いします。②誕生日祝い、ありがとうございます。

矢野修二君　誕生日のお祝い、ありがとうございます。

植田清司君　山田園生様、本日の卓話、宜しくお願い致します。楽しみにしています。

冨居利貞君　12月９日公開卓話に神奈川区シニアクラブ連合会の理事をお呼び下さり、ありがとうございます。

吉田隆男君　研修会がある為、早退させて頂きます。

山本　登君　早朝の犬の散歩、そろそろ寒くて辛くなってきました。

山田正憲君　本日の卓話者は私のいとこです。皆さん、よろしくお願いします。

西山　潔君　天野さん、色々とお世話になりました。ありがとうございます。お蔭様で快適です。

天野公史君　鴻ＰＰ、先日は朝から夜まで大変楽しい一日をありがとうございました。体も心もリフレッシュ出来ました。

横溝　亘君　本日、所用により早退させて頂きます。

金森欣一君　山田園生様、本日は卓話に来て頂き、ありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

12月2日	11件	43,000円
本年度累計		901,868円

「Ｂ－ＳＫＹ　ＦＥＳ について」

B－SKY FES　実行委員会　副委員長及び事務局
山田　園生　様
（紹介者　金森　欣一　会員）

B-SKY　FES（ビースカイフェス）は、神大寺地区センターに置かれていた神奈川区青少年地域活動拠点が母体となり、生まれてきました。

青少年地域活動拠点とは、横浜市が2007年７月に制定したもので、簡単に言えば各区に『子どもたちの居場所を作ろう』と考え設置したものです。神大寺地区センターに神奈川区の地域活動拠点が置かれたのは、以下のようなことがあったからです。

2007年秋頃から、神大寺地区センターに周辺の中学生が敷地内でたむろったり、中には問題行動をする者も現れ、近隣の施設にも迷惑をかけるようになってきました。当然、地域では不安が増大し、誰かが彼らをコントロールしてくれという声があがり始めます。当該校では先生方による見回りも開始され、放課後には生徒指導の先生が必ず立ち寄り、様子を見ていくようになりました。

このような『事件』があり、地域・行政がタッグを組んで取り組もうとしたのが地域活動拠点です。『悪さ』をしているのは、地域の子供たちですから、一律に『切れば』いいというものではありません。何とか、彼らを一人前の地域の人間として大人になってほしいと願い、その目的遂行のため活用しようとしたのが、横浜市が始めた青少年地域活動拠点でした。

B-SKYの実行委員長の貝川・地区センター館長・区の地域振興課の3者で市に働きかけ神大寺地区センターに地域活動拠点を設置することに成功し、2010年３月１日に青少年地域活動拠点がオープンしました。

オープン当初は『しゃべる場』を提供するのみで、それが拠点の活動でした。そのうち、力が余っているのだから太鼓をたたかせてみたらどうだろう、との意見も出てきて、2011年７月にはバンドクリニックを始めました。バンド活動が始まると、やはり一度は発表してみたいということになり、2012年２月12日にかなっくホールでプレライブを開催しました。この時の参加団体は５団体で、参加者は約50名、観客は200名弱でした。参加者も、幼児・小学生を中心としたチアダンスグループ、中学生バンド、高校生バンド、大学生専門学校生バンド、保護者バンドといった顔ぶれでした。このプレライブの成功を受け、次年度よりB-SKY FESが開催されることになりました。

B-SKYという名称はプレライブ後の実行委員会で決めました。その意味は、BにはBand、Dance、Performanceの意味を込め、SはSeisyounen(青少年）、KはKanagawaku、YはYokohamaで、横浜市神奈川区の青少年たちのバンドやダンス・パフォーマンスを発表する場として定義付けしています。名称のルールとして、B-SKYという文言の後に実施日の西暦年号を付けるということにしました。ですから今回準備している、来年（2017年）の１月29日に実施されるB-SKY FESはB-SKY FES 2017になります。

B-SKY FES 2013（以下年号のみ）からは開催場所を神奈川公会堂に移しました。かなっくホールに比べて1.5倍の集客容量をほこる建物です。参加者数100名、観客数300名。2014からは、チラシを見た『一般参加』の参加者が増えてきました。大学生・個人等、様々な方が参加しました。参加者数180名、観客数400名。2015ではパンフレットを参加者に作成してもらうようにしました。参加意識を高め、将来はスタッフになってもらいたいという狙いもありました。参加者数130名、観客数420名。2016では、神奈川東ロータリークラブが共催となり協力して下さいました。参加者数300名、観客数850名。

そして今年2017では、横浜でアジア開発銀行の総会が開催されるにのに関連して、イベントとして神奈川区ではB-SKYが選ばれました。アジアとの交流をめざし、神奈川朝鮮中高級学校の舞踏部と器楽部の方々が出場します。

B-SKYは今回で６回目を迎えます。今回はプレライブで参加者だった若者がスタッフとして参加してくれてます。今後は、自らが企画して運営していくことができるイベントを目指していきます。そうなったら、現在の我々はバックアップ（区との折衝や地域との関わりとか）をしたいと思っています。

ロータリーの皆様にも、温かい目で子ども達を見守ってくだされば幸いです。

ロータリーニュース

第７章
「3-H：ロータリー財団の輝く新たな夜明け」からの抜粋

2016-17年度は、ロータリー財団の創立100周年にあたります。世界中のロータリー会員は、１世紀にわたり、人びとの生活をより良くし、多くの人に影響を与えてきました。今年度、ロータリー財団の第１世紀をつづった『世界でよいことをしよう：人びとの心に触れた100年』からの抜粋を少しずつご紹介してきます。

この本はロータリーのオンラインショップ（shop.rotary.org）からもお買い求めいただけます。

財団100周年と祝賀のアイデアについては、特設記念サイト（www.rotary.org/ja/foundation100）をご覧ください。

第７章
3-H：ロータリー財団の輝く新たな夜明け

設立60年にして、ロータリー財団は重大な転機を迎え、後の主要プログラムとなるポリオプラスの基盤を築くこととなる。

その経緯を最もよく語ってくれたのは、ロータリアン、クレム・レヌーフである。レヌーフは飛行機の操縦士として第二次世界大戦で兵役を務めた後、オーストラリア、クイーンズランド州の小都市ナンボーに居を構え、会計士となった。

1949年にナンボー・ロータリークラブの創立会員となり、後にクラブ会長に就任。1965年には地区ガバナーとなり、ＲＩ理事を務めた後、1978-79年度ＲＩ会長に選出された。

ガバナー就任以前から、レヌーフはさまざまな経験を重ねていた。1966年には、レークプラシッド（米国ニューヨーク州）での研修に向かう途中、インドのある医療施設に立ち寄った。

ベロールにあるその施設は、オーストラリア、インド、米国のロータリアンが支援していた。これはロータリーがちょうど、マッチング・グラントと研究グループ交換（GSE）の活動を始めた頃のことである。

会長就任の準備を進めていたレヌーフは、同期の元ＲＩ理事マイク・ペドリックから、ボランティアの医師が南米で実施した医療プロジェクトの話を聞いた。また、米国ピッツバーグで開かれたロータリー研究会で、感染症の集団予防接種に驚異的な効果を発揮する「ピースガン」（平和の銃）についてロータリアンのロバート・ヒングソンが紹介するのを目にした。

こうした経験がレヌーフの頭の中で形となり始めたのは、1978年２月、レヌーフが次期会長として理事会会合に出席したときのことであった。

ロータリー史上最も重要な会合の一つとなったこの会合で、バミューダ出身のジャック・デービスＲＩ会長の招きにより、Brother's Brother財団の創設者兼医療責任者を務めるヒングソンが「ピースガン」について理事に説明したのだ。

高圧力で溶液を肌に浸透させるこのガンは、１時間に1,000人の予防接種を可能にするものであった。従来の使い捨て注射器による集団予防接種よりも、はるかに大きな改善である。

ヒングスソンは自らが設立した財団の活動について力強く語り、ピースガンの使用方法を実際に披露してみせた。その上で、子どもたちの予防接種のために、ロータリーとBrother's Brother財団が提携することを提案した。

デービス会長は続いて、２年後に控えたロータリー創設75周年を祝う特別キャンペーンについて持ちかけ、75周年に大きなインパクトを与えるアイデアはないかと理事会に問いかけた。

発展途上国の子どもたちの保健問題に特に強い関心を抱いていたデービス会長は、翌1979年が「国際児童年」であり、1980年代を国連が「Decade of the Child（子どものための10年）」に指定していたことから、「1978年国際大会で（小児疾患をなくすことに）重点を置いたプログラムを発足させてはどうか」と尋ねた。

その晩、レヌーフは夜更けまでペンを走らせ、２年間にわたる75周年記念基金を創設する提案書を書き上げた。その基金は、クラブや地区が単独で取り組むには大きすぎる国際奉仕プロジェクトを支援するものであった。また、ロータリアンが自らの時間や能力をボランティアで提供するなど、プロジェクトへの直接的な関与を促すものでもあった。

翌朝、レヌーフの提案書を読んだデービス会長はこれを気に入り、ほかの理事にも読み上げて紹介した。提案は理事会で承認され、次回の東京国際大会でロータリー世界に発表することをデービス会長は約束した。

執筆：デイビッド C. フォワード

1978年に東京で開かれた国際大会で3-Hプログラムを紹介するクレム・レヌーフＲＩ会長エレクト

ロータリーニュース

次回〈12月16日〉の予定

テーマ　「勝利至上主義から勝利追求主義への転換
～リオオリンピックから考える～」

横浜国立大学　教育人間科学部　教授　木村　昌彦　様
（紹介者　加藤　仁昭　会員）